

横浜市小学校社会科研究会

6 学年部会

研修会記録

第 7 号

令和4年 12月 7日

横浜市小学校教育研究会

会長 徳江 武司

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 池田 翼

【提案日時】

11月 2日 (水)

提案 諸橋 奈苗 先生 (都筑小)

【会 場】

横浜市立 平沼小学校

司会 栗田 一輝 先生 (山下みどり台小)

記録 佐藤 安世 先生 (北綱島小)

1 提案内容 単元名

単元名「明治政府が目指した国づくり～富岡製糸場を通して見る日本の近代化～」

2 提案者より

- ・前時はWさん、本時では他の伝習工女達という広い視点で見たいと考えている。
- ・本時の前半では、前時のふり返りをもとに、富岡製糸場と六工社を比べる視点、Wにせまった視点、他の工女達の視点の発言が出るのではないかと予想している。
- ・資料「日本全国から集まった工女と富岡製糸場を模範とした器械製糸」では、日本各地から集まった工女達の地元製糸工場が建っていることから、明治政府のねらいに迫れるのではないかと考えている。
- ・学習問題の言葉と資料の出し方（タイミング）を検討してほしい。

3 協議会

- ・第7時（Wさん）と第8時（他の工女達）の内容が行き来するだろう。整理できるとよい。
- ・Wさんは、最初から技術を伝えるために雇われているのだというプロセスが工夫できれば、富岡製糸場を出た後の他の工女達も関連付け、「広めるため」として考えていけるのではないかと。
- ・本時で扱う資料が明治政府の意図が分かる中心資料としてとてもよい。Wさんを主語にして本時目標に十分せまれるのではないかと。
- ・Wさんが、たった1年で長野に返されてしまったこと、富岡製糸場に比べ、劣悪な環境に戻ったところに子どもの問題意識が高まるのではないかと。そこで、(資)募集要綱等で根拠に基づいた予想、Wさんだけでなく他の工女達もそうだとことから、みんなを戻すことで明治政府は国の利益を上げようとしていたという意図を考えていけるのではないかと。
- ・本時資料から、技術が各地に広がっていったことが分かるので、「何のために、広めたかったのだろう」というさらなる問いで、お金につながることを、(資)生糸の輸出量で分かる。
- ・Wさん、他の工女達が戻ったという意味に着目し、明治政府の意図に迫っていくのがいい。そのときに(資)日本政府の出荷量につながっていく。手作業と全国に工場が広がった時の出荷量の違いでも考えていけるのではないかと。
- ・実際に、六工社に戻ってどうだったのかにつながる根拠となる資料がほしい。

- 本時目標が明治政府の意図であることから、学習問題の主語との転換がどこかで必要。あるいは前時で成立させる「なぜ明治政府は、たった一年でWさんに戻したのか。」にするか。
- 第6時で（資）募集要項を提示する際、工場の場所、人数、指導者、勤務内容、期間（1～3年）など明治政府の意図がみえるような見せ方、Wさんからみた明治政府にしておくことで、第8時で明治政府からみた工女達になっても、視点が変わるだけなのでできるのではないか。
- Wさんは、募集要項の条件で働き始めた。教師として技術を広めてほしいという明治政府のねらいは達成できたのかという子どもの思考が働きつつ、Wさんを追っていければいい。
- 本時展開のどこかで明治政府はという主語に転換していかなければならない。
- 本時の主語の部分は、子どもに寄り添った形のものが一番よいが、どこかで本時で先生の発問が必要になるのか、学習問題を変えるのならば資料が必要。年表でWさんが一年で長野に帰ったことがWさんの意思ではないことが分かれば、明治政府に戻したと分かる。明治政府はなんで戻したのかという方向に行く。どちらで進めていくのが子どもにとってよいのか工夫していけばよいのではないか。

文責 佐藤 安世（北綱島小学

校）